

# 風土記の丘の花だより<sup>155</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年10月8日)

週の半ばから急に涼しくなりました。ツクツクボウシの声も聞こえなくなったようです。暑かったですが、やっと秋ですねえ。



キツネノマゴの花が咲いています。「狐の孫」ってどうして、こんな名前になったのでしょうかね。不勉強な私はその語源を知りません。植物は「なんとか科」という仲間分けがされていますが、キツネノマゴはキツネノマゴ科です。同じ仲間が少ないので、「〇〇などと同じ仲間です」と言いにくい植物です。写真はピンク色ですが、真っ白なものもあります。



なんと地味な花でしょう。クワクサの花です。葉が桑の葉に似ているのでこの名前が付いています。とても単純な理由ですね。これは小早川家の庭で撮りましたが、全然珍しくない草ですから、どこにでも生えています。白く見えるのが雄花で、黒っぽく丸まっているのが雌花です。葉の周りにはギザギザがあり、茎は少し紫色を帯びます。ちなみにクワクサはクワ科です。



細〜い茎に赤いツブツブのようなものがたくさん付いているのはミズヒキです。タデ科の草です。つぼみのころは真っ赤ですが、開くと花びらは真っ白です。それが紅白なので水引と言うんだという説や、細い茎に水滴が連なって付いているようだから水引だという説などがあるようです。どちらにしても和風な名前が風情がありますね。庭にも植えられますが、野外にも群生があります。



最後はシダを紹介します。フユノハナワラビです。やっと秋めいてきたところなのに「冬」とは少し気が早いですね。ワラビと付きますが、ワラビの仲間ではありません。上の花みたいなところから孢子が出ます。周りの草が枯れてくるこれからの季節、よく目立つようになります。

松下